

県内の患者数

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	0	0	百日咳	0	0
RSウイルス感染症	1	0	ヘルパンギーナ	166	238
咽頭結膜熱	9	18	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	66	97
A群溶血性連鎖球菌 咽頭炎	40	40	急性出血性結膜炎	1	0
感染性胃腸炎	141	148	流行性角結膜炎 (はやり目)	9	13
水痘	41	43	細菌性髄膜炎	0	0
手足口病	514	618	無菌性髄膜炎	0	0
伝染性紅斑 (りんご病)	7	12	マイコプラズマ肺炎	1	2
突発性発しん	63	54	クラミジア肺炎	0	0

**報告が多い  
感染症**

- 手足口病
- ヘルパンギーナ
- 感染性胃腸炎

- 手足口病は、報告数 514 件(前週報告数 618 件)と減少。  
地区別では、宇城、山鹿、八代に多く報告がみられる。  
年齢別では、1歳の 125 件を最多に、主に 10~14 歳以下からの報告である。
- ヘルパンギーナは、報告数 166 件(前週報告数 238 件)と減少。  
地区別では、人吉、天草、菊池に多く報告がみられる。  
年齢別では、1歳の 52 件を最多に、主に 10~14 歳以下からの報告である。
- 感染性胃腸炎は、報告数 141 件(前週報告数 148 件)と減少。  
地区別では、人吉、山鹿、宇城に多く報告がみられる。  
年齢別では、1歳の 23 件を最多に幅広い年齢層から報告されている。

◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血 性連鎖球 菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパ ンギー ナ	流行性 耳下腺炎	急性出 血性結 膜炎	流行性 角結膜 炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア 肺炎
熊本市保健所		1	5	18	31	18	202	1	29		36	29	1	8				
山鹿保健所					12	1	35		1		6	2	*	*				
菊池保健所				6	16	5	40	1	5		25	8						
阿蘇保健所				1	2		1						*	*				
御船保健所				1	2	1	2		2				*	*				
八代保健所			2	10		52	3	3			5	1						
水俣保健所				2	2	23		3			9	2	*	*				
人吉保健所				21	3	13		2			22	2	*	*				
有明保健所			2	1	21	3	39		5		24	8		1			1	
宇城保健所			1	4	17	6	62		6		12	10						
天草保健所			1	8	8	1	46		9		27	4						
計	0	1	9	40	141	41	514	7	63	0	166	66	1	9	0	0	1	0

◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0~5ヶ月	6~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
インフルエンザ	0																					
小児科定点年齢	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20歳以上							
RSウイルス感染症	1			1																		
咽頭結膜熱	9			5	1	1	1	1														
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	40		1	1	3	6	7	2	4	2	5	3	4		2							
感染性胃腸炎	141	3	18	23	18	14	16	10	5	4	7	9	6	2	6							
水痘	41	1	4	8	9	8	5	3	2	1												
手足口病	514	11	57	125	118	83	35	33	14	12	9	7	9		1							
伝染性紅斑	7			2	1	1	1	1		1												
突発性発しん	63	3	30	26	4																	
百日咳	0																					
ヘルパンギーナ	166		28	52	32	18	14	8	6	3	1		3		1							
流行性耳下腺炎	66			5	13	12	10	7	3	9	2	1	4									
眼科定点年齢区分	合計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10~14	15~19	20~29	30~39	40~49	50~59	60~69	70歳以上		
急性出血性結膜炎	1														1							
流行性角結膜炎	9				1										1	2	1					3
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1~4	5~9	10~14	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70歳以上					
細菌性髄膜炎	0																					
無菌性髄膜炎	0																					
マイコプラズマ肺炎	1			1																		
クラミジア肺炎	0																					

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

- 手足口病：熊本・山鹿・菊池・八代・水俣  
人吉・有明・宇城・天草
- ヘルパンギーナ：熊本・菊池・水俣・人吉  
有明・宇城・天草
- 流行性耳下腺炎：宇城

ヘルパンギーナ  
手足口病



手足口病の報告数は、4週連続で減少しましたが、依然として警報レベルが続いています。また、保健所別でみると八代や宇城では先週に比べ増加しているほか、医療機関からは、手足口病に2回以上かかった例が報告されており、引き続き感染予防が重要です。  
また、ヘルパンギーナも、3週連続で減少していますが、現在も警報レベルが続いているため、引き続き注意してください。手足口病、ヘルパンギーナともに、幼児を中心に流行する急性ウイルス感染症です。手足口病は、口の中や手、足などに水疱性の発疹が見られる疾患で、ヘルパンギーナは、発熱とのどにあらわれる水疱性発疹が特徴です。患者の便や咳、くしゃみから感染しますので、予防法としては、排便処理後、食事前、調理前の手洗いやうがいなどが有効です。

